

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191513464		
法人名	一般社団法人 匠和		
事業所名	グループホーム 匠和(ユニットⅠ)		
所在地	北海道亀田郡七飯町本町6丁目7番33号		
自己評価作成日	平成27年3月12日	評価結果市町村受理日	平成27年4月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=t_rue&JigyosyoCd=0191513464-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 3 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

七飯町の中心部に位置しながらも自然豊かな環境の中で、入居者様とともに家庭菜園を営み土とふれあい四季を感じながらゆっくりとした時間の中で生活を送って頂けるよう取り組んでおります。当事業所の理念は『私達がさせていただきます 人生のお手伝い』職員・家族・地域の連携により入居者様一人一人の個性を尊重し、ケアしてゆくこと目指しております。秋には地域の皆様がたくさん集まる町内のイベントとして「匠和秋まつり」を実施しております。当事業所の入居者様は、昔、農家を営んでいた、農家の手伝いをしていたりという生活暦の方が多く、これもまた当事業所の理念に沿い、入居者様一人一人の生活暦を生かし活き活きとした表情を引き出すよう、日々、意識しながら入居者様との関わりを大切にしております。また、家庭菜園で収穫した野菜や付近で採れた山菜を食して頂き、食の部分からも四季を感じて頂いております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム匠和」は横津岳の懷に抱かれた七飯町の閑静な住宅地に位置し、雑木林に囲まれた中にゆったりと佇んでいます。近くには教会や役場・公共施設・小・中学校があり落ち着いた生活環境の中で、利用者は日々子供たちの元気な声を聞き、職員や家族と一緒に畑を耕し、収穫した大根でたくあんを作り、季節の移ろいを五感で受け止めて穏やかな暮らしを続けています。ホームは地域との関わりも良好で、秋祭りには家族の協力を得て野菜の販売をし、中学生の吹奏楽の演奏会を行い、ホームは100食限定で豚汁を無料サービスをして大勢の方に喜ばれています。町内の新年会には職員が会場設営など準備に協力しています。おやつを多く作った時は近くの病院や薬局におすそ分けしています。年間を通して楽しみの機会も多く、花見や紅葉狩りはシーズン中、何度も出かけて外食をしたり、お弁当の出前を取って戸外で食べたり、流しそうめんや焼き芋を作って楽しんでいます。管理者と職員は利用者のみならず家族にも寄り添って対応し、心のこもったケアに取り組んでいます。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『「私達がさせていただきます 人生のお手伝い」 職員・家族・地域の連携により入居者一人一人の個性を尊重し、ケアしてゆくこと』の理念を全職員が常に意識するよう心がけている。事業所内に掲示し、朝の申し送り時には全員で唱和している。	管理者は折に触れて理念を振り返る機会を確保して、全職員でその意義を確認し意識付けすることで、具体的なケアに繋げる取り組みをしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「秋まつり」ではチラシ・案内を広く配布し、多くの地域の方々に参加して頂いている。また、敬老会やクリスマス会では地域の関係者の方々にもお声がけし、地域との交流に努めている。地域包括支援センターとの連携もしっかりできている。	利用者は町内の新年会に出席しています。ホームの祭りでは訪れた大勢の方に豚汁を振舞っています。七夕祭りでは来訪するたくさんの子供たちと触れ合い、中学生の職場体験の受け入れや成年後見人養成講座など、積極的に地域との交流に取り組んでいます。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症高齢者を抱えるご家族様や独居高齢者からの相談が多く寄せられ、その都度、早急かつ丁寧に対応できる体制ができており必要に応じて訪問したり、ご家族様、ご本人様の相談に親身に対応していて好評を得ている。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告や個別のテーマを設定し活発な意見交換ができるように努力している。行政、警察、消防署、学校、地域、ご家族様、入居者様、地域包括支援センター等様々なジャンルの方々に毎回お声がけし、サービスの向上に繋げている。欠席された方にも議事録を送付している。	年6回、利用者・家族を始め町内会・行政・包括支援センター・学校の先生など様々な立場の方々が出席して開催されています。運営状況や行事報告、また、毎回テーマを決めて活発な意見交換がされ、ホームの質の向上に活かしています。丁寧に纏められた議事録を全家族に送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回、七飯町の担当者に出席して頂き実情を具体的にお話し、理解して頂いてる。日常的にも、問題点があった時にはその都度報告、指導を仰ぐように努めている。	町の担当者とは制度の事や生活保護の件などで双方向で相談し合い協力関係を築いています。運営会議の議事録を送付したり、町から研修会の案内を頻繁にいただくなど連携を深めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修の中に組み込み、身体拘束については全職員に周知徹底し、必要事項を事業所内に掲示している。玄関の施錠は自動ドアになっておりいつでも自由に入出りできる体制になっている。	身体拘束廃止マニュアルを作成して、何時でも閲覧できる状態にし、必要項目は事業所内に掲示しています。内部研修では禁止の対象となる具体的な行為について、繰り返し勉強して全職員で更に理解を深めて行く意向です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修の中に組み込み、高齢者虐待防止法等については全職員に周知徹底し、必要事項を事業所内に掲示している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な研修の中に組み込み、権利擁護については全職員に周知徹底し、必要事項を事業所内に掲示している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の権利・義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、入居者様及びそのご家族様等に説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をはじめ、できるだけ多くの機会に懇親会や話し合いの場を設定するよう努力している。また、ご家族様が来所の際、個別面談にできるだけ多くの時間をとるように心掛け、意見、要望を運営に反映させるように努めている。毎月の機関紙の他、個別お便りも作成している。	面会時や電話などで些細な事でも話しやすいように雰囲気づくりに配慮しています。出された意見や要望・気付きなどを詳しく連絡ノートに記録して職員間で共有しています。利用者の身体機能が低下し、居室に手すりが必要になった時は早速ミーティングで話し合い適切な所に取付けています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や幹部会議、必要に応じ全体会議を開催し職員に自由に発言してもらい、運営に生かしている。また、職員の採用、運営方法、入居者様の受け入れ、入居継続の可否についてもその都度職員の意見を聞いている。個別面談も随時行っている。	管理者は日頃から職員の意見や提案に真摯に耳を傾け、運営やケアに反映できるように取り組んでいます。事例として、利用者が安定した立位を保ち、職員が安全に介助が出来るように、風呂場に手すりを増やすなど意見が反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を職員がいつでも見れるように身近に設置しており、不明な点、疑問なことがあれば懇切丁寧に説明するよう努力している。改善点があれば積極的かつ前向きな検討、改善するなど働きやすい職場環境作りを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	独自の研修会、勉強会、新人研修の年間計画を作成、実施、外部研修への参加の促し等で、職員のスキルアップに積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道GH協議会の研修、会議、催しには必ず参加しており、また七飯町内の他事業所とも、お互いのイベント等に行き来し交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入段階の相談を受けたときには、ご本人様の現状、生活課題、生活歴等を出来る限り細かく分析、把握し、困っていること、不安なことに耳を傾ける努力を日々している。またホームの概要をお話し、見学を通して安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入段階の相談を受けたときには、親身になって相談を受けるよう心がけている。また、見学時には、体験的にご家族様、ご本人様が他入居者様と接する機会を設けており信頼できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入にいたるまでの医療、介護、社会資源の利用状況の把握及びご本人様、ご家族様との面談により、ご本人様が何ができ、何ができないかを明確化するにより、必要としている支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様本人の主体性を基本にすることが、その人自身の症状や生活の質の改善につながるということを事業所理念を通して実践している。入居者様自身が主役になる場面（例えば、家庭菜園を行っているが、教えてもらうことが多い）を作り出している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。（例：湯茶の自由利用、関係再構築の支援等）また、クリスマス会や敬老会、秋まつり等のイベントに必ず招待し、ご本人様との楽しい時間が共有できるように配慮している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所と一緒にいたり、生活歴やご家族様からの情報を参考に、当時の写真や物品を見ながら会話したり、馴染みの人を招待したりと、関係が途切れないように努めている。	知人や同級生、以前利用していたディサービスの職員が訪ねて来ています。ドライブの途中で馴染みの場所や自宅周辺を通った時は思い出話で会話が弾んでいます。104歳の利用者には毎日息子さんが来訪されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者様同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め当事者や他入居者様に不安や支障を生じさせないようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご本人様、ご家族様に、機関紙や各種イベントの案内や招待状を送ったして関係性を大切にしている。また、ご家族様の方からの相談があればその都度相談に乗ったり、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様のペースを尊重するため、職員は、職員の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者様が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。日々の会話やご家族様からの情報を参考にしている。	利用開始前に自宅を訪問してゆっくりと話を聴き、環境を把握して様々なケアを行いながら情報を得ています。今後は会話や行動・仕草から定期的に情報を蓄積するように取り組む意向です。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様一人一人の生まれてからこれまでの生活歴、ご本人様にとっての大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は職員側の決まりや都合で業務を進めて行く態度ではなく、入居者様一人一人が自分で決めたり希望を表したりすることを大切にしそれを促す取り組みを日常的に行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や入居者、全職員の気づきや意見を取り入れ介護計画を作成しており、各々が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。	毎月アセスメントを含め全職員でモニタリングを行って計画の原案を作り、その後カンファレンスを開催して、本人と家族の意向・アイデアを反映させた介護計画を作成しています。介護計画の実施状況は日々の記録に連動させ見直しに活かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者様一人一人の特徴や変化を具体的に記録している。また、記録時に文字の色を変え工夫し取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医への受診付き添い、送迎、ご本人様の希望の買い物付き添い等、ご家族様、ご本人様の要望には、出来るだけ応えるよう、柔軟な支援、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の料理店での外食、地域ボランティアによる慰問、七夕の時には地域の保育園児童の訪問交流、町会のお祭りでの山車の訪問等様々な形で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からの馴染みのかかりつけ医受診にはご家族様の協力を得て支援している。又、事業所主治医とかかりつけ医との連携が密になるよう情報の提供を出来るだけ細かく、正確にするよう心がけている。	かかりつけ医の継続は利用開始時に本人と家族に意向を確認し、通院介助は家族と協力しながら行い、結果報告は電話や来訪時に行っています。協力医の往診と看護師による健康管理が定期的に行われ適切な医療が受けられるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の引き継ぎ時等での介護職、看護職との綿密な打ち合わせや、身体の異常の発見、バイタルサインの確認等、報告対応を相談している。医療情報、受診の際の医師の指示などの分析、チェックを共同で行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が必ず同伴し、医療機関に情報提供し、相談するように努めている。又入院中もできるかぎり面会し、ご本人様、ご家族様に安心して頂けるように努めている。更に、日常的にかかりつけ医、病院関係者との関係づくりを行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、その都度、ご本人様・ご家族様・主治医・関係機関とカンファレンスを行い、当事業所でできる事をきちんと説明し納得して頂けるような体制作りをしている。また、入居時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明し同意を得ている。	重度化・終末期ケア対応指針を基に、利用開始時に本人と家族に十分に説明して、意思確認書を作成しています。医師や看護師との連携体制も整えています。	職員は知識や技術の習得に努めていますが、緊急時対応やホームの力量把握の為にも日頃から全職員で話し合い意欲向上に繋げる取り組みを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習Ⅰを受講し急変時、事故発生時に備え意識を高めている。また毎朝の引き継ぎ時、4項目からなる注意事項を読み合い事故を未然に防ぐよう努めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に最低二回、地元の消防署の協力を仰ぎ、避難訓練、火災訓練、通報訓練を実施している。運営推進会議にも出来る限り。七飯町役場担当者、消防職員、警察職員に出席して頂き、相談し災害対策の強化と協力体制構築に努めている。	年2回消防署や地域の方の協力を得て避難訓練を実施しています。終了後は消防署から講評をいただき課題を明確にして、災害対策強化に取り組んでいます。飲料品メーカーの協力の下、非常災害用ボックスを設置し飲料水を用意しています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に入居者様一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がけや対応は行っていない。（入居者一人一人の尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法等）	職員は利用者の尊厳やプライバシーの重要性を理解しています。接遇の5ポイントや3ヵ月スローガンを作成し、毎日唱和しホームに掲示して意識付けを図り、個人記録背表紙はイニシャルで表記し一定の場所で保管し管理を徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、入居者様一人一人が自分で決めたり、希望を表したりすることを大切にし、それらを促す取り組みを日常的に行っている。（選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等）		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の理念に沿い、入居者一人一人の個性を尊重し、その人のペース、希望を何よりも優先するように全職員が意識し、努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好み、らしさを尊重し、職員と一緒に考え支援できる体制を作っている。衣類、化粧品購入は、ご家族様も含めて支援しており、その人らしい身だしなみ、おしゃれができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者様と同じ食事を楽しみながら食べ、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。また、お誕生日会にはご本人様の希望を聞き、メニューに取り入れている。調理レクとして月に最低一回は入居者様と共に食事作りを行っている。	利用者の希望を取り入れた献立を作成し、買い物は利用者と職員が一緒に行き旬の新鮮な食材を仕入れています。食事の一連の作業も役割を決めて行い、毎月行なう調理レクでは男性も活躍し、誕生日のケーキ作りは皆で一緒に行ったり、ヨモギを摘みおやつや団子作りもしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週間の献立表を作成・実施しており、できるだけ早期に作成することにより、入居者様一人一人の摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを月を通し、また一日全体通じて正確に把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の力を引き出しながら、口腔内の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（例：歯磨き、入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツをできる限り使用しないで済むように、入居者様一人一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。また、排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	医師の指示により、水分管理が必要とされている場合はおむつ交換毎に重量を計り、尿量を測定して、水分摂取量と排泄量をしっかり記録しています。日中は自立されている方が多く、夜間は睡眠を優先に考えて、本人と相談の上、希望に沿って紙パンツやパット・ポータブルトイレを使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則的な排便習慣をつけ食物繊維を多く含む食品や水分を多く取るように促したり、メニューに取り入れるように努力している。また、運動や腹部マッサージなども取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様一人一人の希望に合わせ、くつろいだ入浴が出来るように支援している。（時間帯、長さ、回数等を考慮している。）	週2回、本人の希望する時間に合わせて入浴しています。風呂の温度も一人ひとりの希望に沿って調節し、ゆっくりと入っていただけるように配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人一人の睡眠のパターンを把握し、夜眠れない入居者様には、一日の生活リズム作りを通じた安眠策を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を周知しており、入居者様一人一人が医師の指示どおりに服薬できるように支援し、症状の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内で入居者様一人一人が楽しみ事や出番を見いだせるよう場面作り等の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそって散歩、買い物、外出ができるようご家族様にも協力を仰ぎ、ご本人様が満足し、喜び、生き生きと過ごせるように職員が一丸となって取り組んでいる。	気候が温暖な時期には天気を見ながら日常的に近所を散歩したり、外気浴をしています。遠出のドライブを楽しむ機会を多く確保し、特に桜の花が咲く季節や紅葉狩りの頃は近郊の町の全ての名所に出かけて四季折々の美しさを満喫しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様が自分でお金を持つことの大切さを職員が理解しており、日常の金銭管理をご本人様が行えるように、入居者様一人一人の希望や力量に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状をご本人様に書いて頂くよう支援している。また、ご本人様から希望があればその都度、ご家族様へのお手紙作成や電話をする体制はできている。またご家族様、知り合いからのお手紙を読むことが困難な方には読み聞かせている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	違和感や威圧感を感じさせず、ご家族様が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいように玄関まわりや建物の周辺が家庭的な雰囲気となるよう配慮している。また共用の生活空間(居間、台所、トイレ、浴室等)がいずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。	共有空間は大きな窓から暖かい陽がたっぷりと入り、温度や湿度が適切に管理され掃除も行き届き清潔が保たれています。玄関や居間・廊下に観葉植物を配置して、目にも優しくまた、家庭的な温かい雰囲気や生活感を醸し出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に一人になったり、気のあった入居者様同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ安心して過ごせる場所となっている。全居室に温・湿度計を設置している。	居室にはクロゼットが備え付けられており、使い慣れたタンス・思い出の品々も一人ひとりのセンスを活かした配置にしています。仏壇のある利用者は職員の協力を得ながら、水やご飯を毎日供えて供養をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の身体機能の低下に合わせ安全かつ出来るだけ自立した生活を送れるようにするための設備、工夫がある。また、場所がわからなくなることによる入居者様の混乱を防ぐための工夫をこらしている。		